

「結婚観」ヒアリング結果

～今後の対策に役立てるため、
聞きにくいことをあえてお聞きしました！～



常磐大学

総合政策学部 法律行政学科

吉田ゼミナール

2023. 9. 20

茨城県議会

・調査特別委員会

■ 今回のヒアリングに積極果敢に挑んだわけ！

●大学生を対象としたアンケートだけでは、少子化問題の背景である、未婚化・晩婚化になぜなっているのかがわからない。

●そこで、30代～40代の未婚の男女の方々の率直な意見を聞くことにしました。

●ヒアリング(一人あたり1時間超)を通して現在未婚の方の結婚観や少子化についてのお考えを知ることによって少子化問題を紐解くヒントが見えてくるのではないかな……



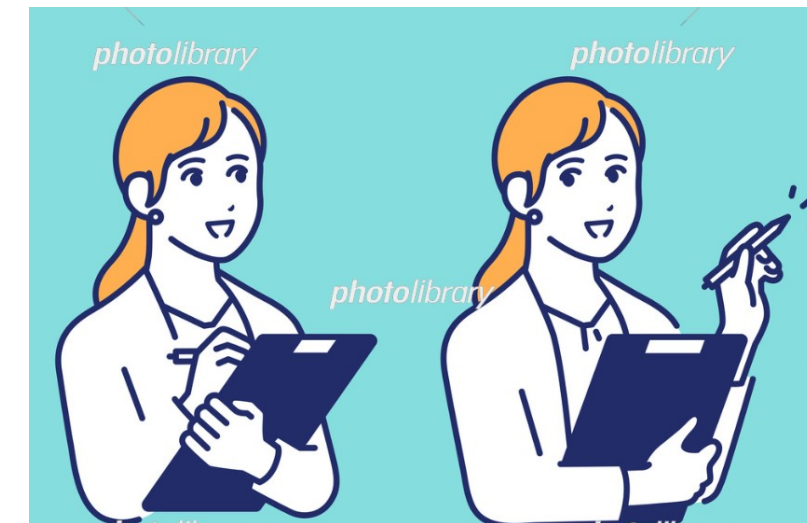
■ヒアリングにご協力いただいた皆さん(_ _)

- 現在、未婚(一度も結婚されていない)30代~40代の男女
- 大学関連でお世話になっている教職員とゼミ生の知人でヒアリングへの協力を承諾していただいた方
- 計11名(男女比 6:5、大学・民間比5:6)

※回答者の意思を尊重し、公表を控えて欲しいとされた結果については、掲載いたしません。それにより質問によっては回答の数が対象者の数と異なる場合がございます。

■ おおまかなヒアリング項目

1. 現在まで未婚であった経緯・いきさつ
2. ご自身の今後の結婚への意向やその可能性を高める条件等
3. ご自身の経験を踏まえた少子化問題への考え
これをヒントに学生が政策提案します！
4. 今後恋愛・結婚をする学生たちへのアドバイスやメッセージ



1. 現在まで未婚であった経緯・いきさつ

【これまでの恋愛経験について】

- 現在に至るまでに数名との交際経験がある方がほとんど
 - 結婚を意識した交際相手がいた経験がある方が6名、
それ以外の5名の方は結婚するタイミングがなかったと答えた。
- 結婚するタイミングがなかったと答えたのは男性の割合が高い

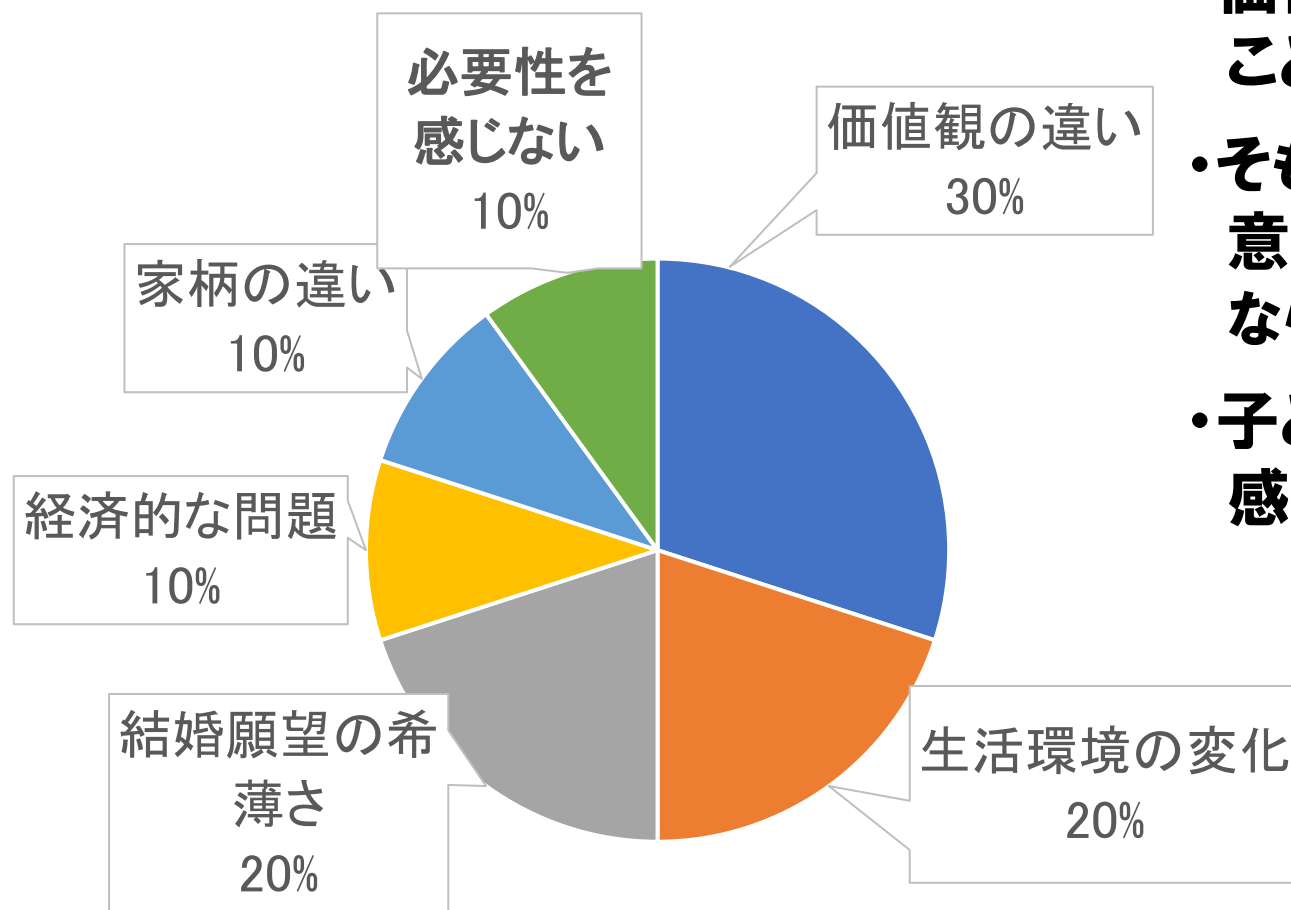
- ✓「出会いがなかった」という言及する方が少なかった印象。
相手との相性や価値観等の違いが現在未婚である理由となっている方が多い。
- ✓女性は「結婚前提としながらも成就せず」、男性は「タイミング合わず」という経緯の違いが確認できた。

結婚しそうな状況になりつつも前に進めなかった事例

- 20代の頃、相手の転勤時に、一緒に来てほしいと言われたが自分の仕事やプライベートの充実と、転勤先の雰囲気から了承することは出来なかった。遠距離恋愛をしながら考えようと思っていたが、別れを切り出された。(40代女性A)
- 30代の頃、両親への挨拶を行った際に家柄や宗教観の違いに気付いた。相手と話し合った結果、結婚を諦めた。今思えば、それを乗り越えてまで結婚しようとは思っていなかったのかもしれない。(40代女性B)
- 将来が不安定な非常勤講師だった時期に専任職員の相手に経済的な意味で負い目を感じてしまい結婚に踏み切ることができなかった。(40代男性D)

結婚しなかった最大の理由は？

結婚しなかった最大の理由(複数回答)



- 価値観の違いのほかに生活環境が変わることをためらう声があった。
- そもそも結婚願望がなかったり、結婚する意欲がなく、パートナーとそのような話にならなかったという意見もあった。
- 子どもが欲しくないので結婚の必要性を感じていないと考える方も。



結婚すること自体の価値が従来と異なってきているのではないか

同世代の方の結婚状況について思うこと……

- 親しい友人たちと集まった時に家族・子どもが話題にあがることが多くなってきて、そのような話を聞くと自分も結婚したいと思う。(30代男性B)
- 結婚するもしないも個人の自由であり、人と比較するものではないので、特段に思うことはない。(30代男性C)
- 大学時代の友人の8割は結婚しているが、気にしてもしょうがないし特に不安感はない。(40代女性B)
- 幸せな結婚生活を送る友人をみると「いいな」と感じる一方、パートナーと上手くいかず離婚した友人をみると「結婚しなくてよかった」と感じる。(40代女性C)

【こんなお話も…】(40代女性)

〈1990年代後半〉…大学卒業時は就職氷河期
女子学生は正社員になりづらかった。
そのため、同年代では学校を卒業後には早くに
結婚する人が多かった。



女性は早く結婚することが幸せ・当たり前と考える人が多数

〈現在〉…多様性の時代とされ、ビジネスシーンで活躍する女性が
増えている。

女性の幸せに結婚は絶対条件ではなくなったのかも



**現在は、「結婚はあくまでひとつの選択肢」といった時代？
ここ30年程度で結婚観の激変が起きているのではないか。**

2. 今後の結婚の考え方・行動

現在の婚活状況

【婚活している…1名】（30代男性）

- 友人や職場の上司・同僚に紹介してもらおうことが多く、積極的に会うようになっている。
- マッチングアプリなども利用しているが会うという段階までに至ったことはない。

【婚活していない…8名】

（30代男性2名、30代女性1名、40代男性1名、40代女性4名）

〈婚活をしていない理由〉

- ✓結婚を考えられる人に出会うことができれば、結婚するかもしれない。（2名）
- ✓自然の流れに身を任せているので、婚活を積極的にする予定はない。（3名）
- ✓そもそも結婚する気がない。（3名）

➡ ほとんどの方が婚活に積極的ではない



今後結婚する可能性を高めるための条件は・・・

結婚する可能性を高めると思われることとして挙げられたもの

回答の割合・重きは圧倒的に
個人的な要件 > 外的要件

〈個人的な要件〉

- 結婚を考えられるようなパートナーとの出会い
- 自身の結婚願望の向上
- パートナーとの相性

〈外的要件〉

- ★ 経済的・社会的な問題が結婚に結びつく可能性は低い。
(強いて言えば)
- 地域社会での子育て意識の向上
- ワークライフバランスが整った職場づくりにより出てくる余裕

今後の結婚に向けた自由意見

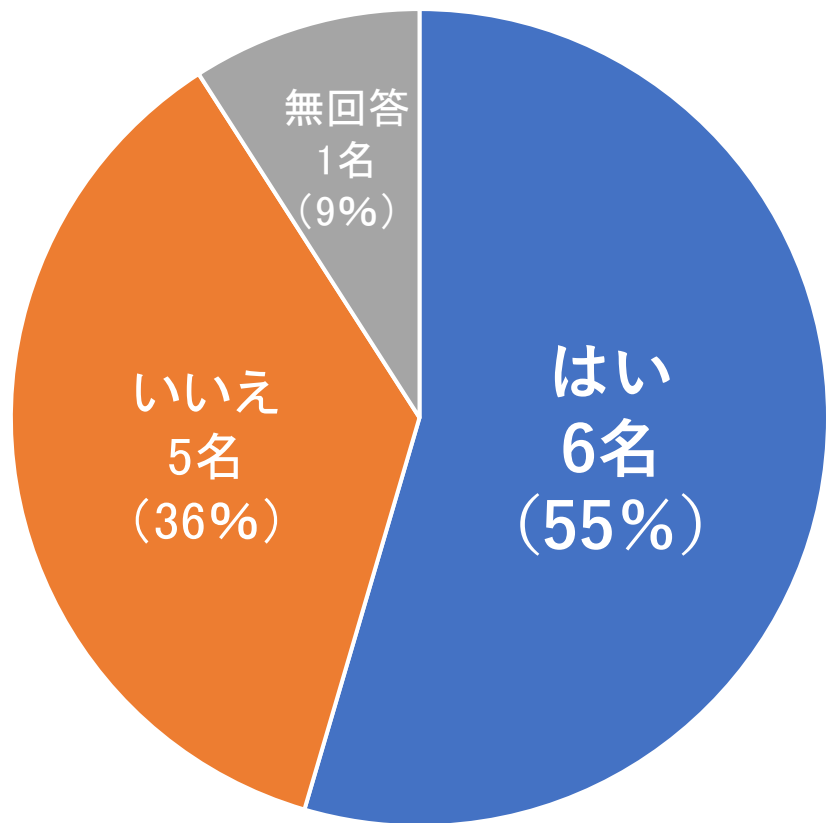
- 結婚したいと思う相手に出会ったら結婚する可能性があるが、わざわざ相手を探すこと(婚活など)に時間を割く予定はない。(40代女性ほか)
- 結婚相手を探す時間的・精神的余裕、経済的な余裕がないと結婚以前に出会いの場自体に行かないと思う。政府や自治体にはワークライフバランスがとれた職場づくりを進めてほしい。(30代男性)
- 民間のマッチングアプリなどには賛成だが、自治体の行う婚活パーティーには反対(もっとやることがあるはず)。(40代男性)



未婚者の40代にもなると経済的な問題もそれほどなく、無理して出会いを求めることもなく、男女とも自然に出会えれば結婚するという傾向が強い！

3. ご自身の経験を踏まえた少子化問題への考え

【Q】 少子化問題について関心はありますか？



少子化問題について関心がある方が多数
→人手不足や経済社会に打撃を与える
社会問題として認識されていた

いいえと回答した方に共通した理由
→自分のことで精いっぱいだから

国や自治体の少子化対策への認識

- 少子化が進んでいるのは現在の少子化対策に効果がないからなのではないかと感じている。(30代男性C)
- 子どもが欲しい人・いる人がもっと優遇されるべき。それが不十分なのではないか。(30代男性A)
- 昔の子育て支援よりはよくなっているのではないか。自治体でも様々な取り組みをしていると認識しているが、子どもがいる知人からは利用しづらいとよく聞く。ニーズにきめ細かく対応すべき。(40代女性)
- 諸外国での抜本的な対策を参考にしたり、自治体職員が率先してやるべきことも多いと思う。(40代男性D)(40代女性)

以下、ヒアリング対象の皆さんからの指摘とそれをもとに私たちが考えた施策の提案を行う！

提案①

子どもを産み育てた数による老齢年金の加算

【40代男性Dさんからの指摘】

- ・ハンガリーは2010年までの30年間で人口1割減(約100万人)、出生率も1.23
- ・現政権はGDP6%の少子化対策を実施。2021年で出生率1.59まで上昇
- ・政策は「出産・子育てで家計の安定・安全が悪影響を受けてはならない」
- ・具体的には①4人産んだ母親は生涯にわたり所得税を免除、②3人産んだ家庭は政府からの無利子ローンの返還免除という徹底的な措置を敢行。
- ・日本もハンガリーのように子育てが家計を圧迫しない抜本的措置を講じるべき

【私たちの提案】



■ 地域の実情を踏まえ国に働きかけるべき。

- ・日本では所得税が源泉徴収で家計の軽減が実感できない。
また老後2000万円問題などもあり、子育て支出により老後の生活崩壊の心配から出産を控える傾向にある。
- ・そこで、所得税でなく、子育ての数に応じて年金に加算すべき。例えば3人育ての家庭は年金を倍額にするなど。県は国に制度設計を働きかけるべき。15

提案②

安心の高まる一時預かり保育の充実

【40代女性Aさんの指摘】

- ・自治体によっては、予約をすると一定の時間、子どもを預けられる一時預かり保育が充実している。(ex.栃木県佐野市)
- ・しかし、利用するには不安な点も…例えば、
 - ①どんな人が子供を預かってくれるかわからないのが不安
 - ②預けたい急遽の事情では予約が難しく利用しづらい

【私たちの提案】

- ・ホームページなどで職員の紹介画像を、広報誌などで預かり保育の様子を掲載し、利用者に安心を与える。
- ・預けないときでも施設を相談の場や遊びの場開放して、職員と利用者の「顔見知り」な関係を構築する。
- ・週の利用回数、利用時間の制限を設定したうえで会員登録した人ならいつでも利用できる制度にすれば当日の急な利用でも対応できるのではないか。16

【40代女性Bさんの指摘】

- ・公務員同士の結婚であれば相手方の仕事の内容や生活について理解が得られやすいし、経済的にも安定している。
- ・結婚しなかった理由でもあげられていた 価値観の違い、生活環境の変化、経済面の問題をクリアできる可能性が大
- ・公務員は積極的に結婚・子育てにチャレンジして裾野を広げて欲しい。

【私たちの提案】



- ・自治体職員限定の出会い系マッチングアプリ、婚活パーティなどを運用して、他の職種に先駆けて結婚・子育てのモデルを構築していく。
- ・他の職種の方々に拡充していくことが効果的になるのではないか。
- ・「公務員優遇」等の批判は、厳しすぎる少子化の時代を迎えて、公務員にこそ「率先垂範の精神」が求められることを十分に説明するなど理解を求める。

4. 今後恋愛・結婚する学生たちへのメッセージ・アドバイス

■子育ては体力のある若いうちにした方がいい。早く子どもの大学等を終わるようにした方がいい。

■学生はじめ若者には、例えば会社をクビ(解雇)になってもやっていけるような人間力の強さを身につけて欲しい。人生のあり方を周りに決められるのではなく、自分で決めるような強さを身につければ、子育てへの不安等も一掃されるのでは。

■本当に好きになって一生ともに生きていきたいという相手に出会えたら時機を逸することなく絶対に結婚して欲しい。一人より二人の方が豊かな人生を送れるはず。ただ何があるか分からないので女子学生には結婚しても働き続けることを前提に人生設計することをお勧めします。